二〇二一年七月一七日

滝壺の深き緑を射抜く日矢　素秀

ウクレレを奏で浜行く夏帽子　せいじ

米寿祝ぐビール一口上機嫌　なつき

な踏みそなぞえにここだ梅雨茸　こすもす

夕涼み掌に受く京の金平糖　小袖

踏んまへし水の凹みや水馬　はく子

影絵めく大和三山夕焼くる　宏虎

つなぎ脱ぎをんなにもどる藍浴衣　凡士

渓流に足を預けて河鹿笛　かかし

磐座の静寂をやぶる不如帰　小袖

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年七月一八日